

平成30年6月15日現在

機関番号：34509

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K13081

研究課題名(和文) 国防と地域社会：北海道千歳市を中心として

研究課題名(英文) Japanese National Security and Local Communities: The Case of Chitose-shi, Hokkaido

研究代表者

松田 ヒロ子 (Matsuda, Hiroko)

神戸学院大学・現代社会学部・准教授

研究者番号：90708489

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1950年代から60年代に防衛庁から刊行された文書資料や自衛隊の活動を報じた新聞や自衛隊をめぐる諸問題について論説した雑誌記事などを収集し検討することにより、創設期自衛隊と市民社会との関係の一端を明らかにすることができた。さらに、自衛隊OB組織の協力を得て、40名の元自衛官を対象にライフヒストリー調査を実施した。これまでほとんど明らかにされてこなかった、創設期自衛隊で勤務した隊員の入隊の経緯や勤務状況、生活実態、地域社会との関係、自衛隊を退職した後の仕事や生活などについての証言を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：This research examines the Japanese civil military relationship of the 1950s and the 1960s through the investigations of various publications. Besides, I conducted life history researches with the forty of former SDF (Self Defense Forces) officers. This oral historical research unveils the SDF's recruitment efforts as well as life and working conditions of the SDF officers. The research also uncovers the relationship between the SDF and local communities.

研究分野：歴史社会学

キーワード：自衛隊 オーラルヒストリー ライフヒストリー 軍隊 戦後史

1. 研究開始当初の背景

私は、博士課程在籍中より約 12 年間にわたって沖縄県の歴史研究に従事し、たびたび調査のために沖縄県を訪れてきた。そのなかで、尖閣諸島問題を背景に八重山諸島で国防意識を喚起するような動きが活発化し、自衛隊基地の建設をめぐる激しい議論がたたかわされるのを目の当たりにした。だが、こうした現状を議論する前提としての、広い意味での日本の「軍隊」と市民社会の関係を考察する学術的研究が乏しいことに危機感を抱き、アジア・太平洋戦争後の日本における広義の「軍隊」と市民社会との関係を議論するための概念的な枠組みを提示しうるような研究をしたいと考えるに至った。

本研究課題を着想する上でもっともインスピレーションを与えられたのが、Catherine Lutz 著 *Homefront: A Military City and the American Twentieth Century* (Beacon Press, 2001) である。本著は、米国最大の軍事基地を抱えるノースカロライナ州の街 Fayetteville の地域史を 20 世紀の米国の軍事展開との関連において描き出し、2002 年アンソニー・リード都市人類学賞を受賞した。この他にも近年、米国では軍事基地が地域社会に与える影響や、軍人とその家族の「生活者」としての生き様を明らかにするような人類学的、社会学的研究が多数発表されている。また Peter J. Kuznick and James Gilbert 編 *Rethinking Cold War Culture* (Smithsonian Books, 2001) をはじめとして、「冷戦」を国際政治学だけでなく文化史や社会史の分野において振り返る試みが、近年世界的に盛んである。本研究の趣旨は、これらの先行研究を参考にしながら、冷戦期

(1945-1989 年) の日本において市民社会がいかに国防を支えてきたのか明らかにし、同時に自衛隊基地や防衛産業によって人びとの生活がどのように変容してきたのか検討することである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、冷戦期(1945-1989 年)の日本において市民社会がいかに国防を支えてきたのか明らかにし、同時に自衛隊基地や防衛産業によって人びとの生活がどのように変容してきたのか検討することである。

3. 研究の方法

当初は、人口の約四分の一を自衛隊関係者が占める北海道千歳市を事例としてとりあげ、自衛隊基地・駐屯地の存在が住民の生活をどのように規定し、また地域社会がどのように自衛隊基地・駐屯地を支えてきたのか検討することを計画していた。しかしながら、研究を開始した 2015 年 8 に国際的な出版社から北海道における自衛隊と地域社会の関係を歴史的に考察したモノグラフと共著書がそれぞれ 1 冊ずつ刊行された。それらの内容は、当初私が計画していた研究内容と被っている部分も多かったため、当初の研究計画を変更することとした。

先行研究をレビューするうちに、自衛隊が地域社会(市民社会)との関係をどのように築こうとしてきたのか、その創設期に遡って検討する必要があることを認識し、特定の地域を事例として取り上げてそこと自衛隊との関係について検討することよりもまず創設期自衛隊と市民社会とのあり方(民軍関

係)について多面的に検討することとした。

研究方法は次のとおりである。

- (1) 防衛庁が刊行した陸上幕僚監部が編纂した『警察予備隊総隊史』や防衛庁から出版された『自衛隊十年史』、『募集十年史』(上)(中)(下)などの基礎的な史料を通じて、警察予備隊、保安隊、自衛隊がどのように組織として発展したのかを検討する。
- (2) 1950年代から1960年代にかけて刊行された一般誌や新聞に掲載された警察予備隊、保安隊、自衛隊関連の記事を収集・検討する。
- (3) 1952年に発刊され、自衛隊の機関紙的な役割を担っていた『朝雲』新聞を1973年分まで通読し、自衛隊と地域社会(市民社会)との関係の一端を示すような記事を収集・検討する。
- (4) 自衛隊OB組織の協力を得て、1950年代から60年代前半に警察予備隊、保安隊、あるいは自衛隊に勤務していた経験のある元陸上・海上・航空自衛隊員40名のライフヒストリー調査を実施する。
- (5) 東京都朝霞市にある陸上自衛隊広報センター「りっくんランド」、沖縄平和祈念資料館や北海道旭川市にある北鎮記念館、北海道各地にある開拓記念館を訪問し、展示物を検討する。

4. 研究成果

- (1) 陸上自衛隊の前身である警察予備隊が創設される際に、米国と日本政府

の双方が重視したのは、警察予備隊を旧陸軍とは全く異なる組織として立ち上げることであった。日米両政府は、旧陸軍が天皇の軍隊としての「皇軍」を自称したことを反省し、新たに創設する警察予備隊は国民に支持される「国民の予備隊」となるべきだと考えた。本研究を通じて、警察予備隊・保安隊・創設期の自衛隊(以下、「創設期自衛隊」に省略)幹部は、旧陸軍の反省のもとに国民に「愛される自衛隊」となることを重視したことが、災害派遣、部外工事、農家に対する援農や各種の国家的行事の支援活動への参加を促したことが明らかになった。それらの活動が今日の自衛隊に対する国民の信頼感を醸成したと推察できる。

- (2) 自衛隊OB組織の協力を得て、北海道から鹿児島県まで20道府県に在住する40名の元自衛官を訪ね、それぞれ2-3時間程度のライフヒストリー調査を実施した。40名は全て1960年代に自衛隊員として勤務した経験を持ち、学歴も職種も多様である。本調査を通じて、これまでほとんど明らかにされてこなかった、創設期自衛隊で勤務した隊員の入隊の経緯や勤務状況、生活実態、地域社会との関係、自衛隊を退職した後の仕事や生活などについての証言を得ることができた。管見の限り、幕僚長などの幹部を除いて創設期自衛隊に勤務した一般の元自衛官に対する口述調査は実施されることがない。自衛隊創設期の内情を知っている元警察予備

隊・保安隊・自衛隊員は高齢化しており、現実的にいって、オーラルヒストリー調査を実施することは年々難しくなっている。本調査で得た記録は今後の本分野の研究の発展のためにも貴重な口述資料となりうると考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

発表者：松田ヒロ子

発表表題：創設期自衛隊にとっての旧軍と戦争経験

発表場所：戦争社会学研究会大会

大会会場：東京大学本郷キャンパス(東京都文京区)

発表日時：2018年4月14日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松田 ヒロ子 (MATSUDA, Hiroko)
神戸学院大学・現代社会学部・准教授
研究者番号：90708489

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()